



ののいち

NONOICHI

2011
平成23年

5

No.674

主な内容

- 第5次行政改革大綱を策定 2
- 東日本大震災「今…私たちにできること」..... 4
- 議会だより 8

藤平地内のつくし
(4月5日撮影)

Ⅱ.質の高い効果的な行政サービスの提供

学校給食のセンター化

小学校の給食調理について、現有施設の老朽化に伴う衛生管理、修繕費用の低減と、食の安全性の向上および調理効率の向上を図るため、自校方式からセンター方式への移行を進めます。



悪質滞納者への行政サービスの制限

住民サービスの公平化と徴収率の向上を図るため、税および使用料滞納者への行政サービスの制限について生活実態などを考慮のうえ実施します。

機能的な組織機能の見直し

市制施行と住民ニーズに対応した組織編制の見直しを図ります。

保育事業の民営化

保護者の保育ニーズに対応するため、引き続き公立保育所の民営化を進め、多様な保育サービスメニューの提供に努めます。



Ⅲ.効率的な行政システムの整備と財政の健全化

行政評価システムの推進とスクラップ・アンド・ビルドの徹底

住民に対して行政活動の中身を説明し、その点検・評価を基に改善・改革する手法です。成果重視の施策を推進することでスクラップ・アンド・ビルドの徹底を図ります。

新地方公会計制度の導入

連結財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、キャッシュフロー計算書、純資産変動計算書）の作成により、将来にわたっての健全財政の住民説明の強化を図ります。

公有地の処分

公有地（普通財産）の売却・貸付及び事業残地の売却による管理経費の節減と収入増を図ります。

有料広告事業の推進

ホームページ、広報紙、封筒、コミュニティバスなどへの有料広告掲載を行い、収入増を図ります。

***協働とは：**同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。環境や考え方が異なるものが、共通の目的のために協力して働くこと。

***住民（市民）協働とは：**住民や町内会、企業やNPO、その他の団体などと行政が、それぞれの得意分野や活動を生かし、よきパートナーとして連携しながら「まちづくり」という共通の目的を持って、地域の公共的課題に協力して取り組む考え

改革の推進期間は、平成23年度から平成27年度までの5年間です。改革の着実な進展を図ります。

大綱は、町のホームページで公表していますが、役場でも閲覧できます。

閲覧場所 総務企画課（役場2階）

閲覧時間 午前8時30分から午後5時15分まで（土、日、祝日は除く）

第5次行政改革大綱を策定



～住民との協働による質の高い効果的な行政サービスの実現をめざします～

35の推進項目のうち主なものを紹介します。

Ⅰ.住民との協働によるまちづくりの推進

まちづくり基本条例の制定

市制施行後のまちづくりにおいて、誰がどんな役割を担い、どのような方法で決めていくのかなど、自治体の基本ルール、住民と行政との協働事項（役割と責任）を条例として定めます。

大学および民間企業との連携

地元大学（県立大学、金沢工業大学、放送大学）および近隣大学（金沢大学ほか）並びに民間企業との事業連携による産業振興をはじめとするまちづくり事業や住民向け教養講座の開設を推進します。



広報広聴活動の充実

住民参加型の広報活動を推進します。町政ふれあいミーティング、町政バス事業の継続とホームページなどの情報媒体を活用した広聴活動の推進を図ります。



パブリックコメント制度の実施と施策への反映

まちづくりに関連する基本的な条例、計画等の策定にあたり、その案を公表し、広く住民の意見を求め計画に反映させる機会を設けるとともに、住民の意見に対する行政の考え方を公表のうえ積極的に住民の意見を施策に反映させます。

これまで町では、昭和60年度から今年度まで第4次にわたる行政改革大綱を策定し、簡素で効率的な行政システムの構築に向けた全庁的な取り組みを進めるなど積極的な行政改革を推進してきました。

現在、町を取り巻く環境は、少子高齢化、環境問題、行政ニーズの高度化・多様化などの社会情勢の変化により、行財政運営の舵取りは厳しさを極めていきます。

しかし、人口5万人を達成し、今年11月1日に市制施行の実現を目指す町は、今後も拡大する地方分権に対応する必要があるとします。自らの責任で真に住民に必要な行政サービスを提供するため、住民本位の行政運営をさらに推進していきます。

大綱では、これまで進めてきた4次にわたる改革をより発展させ、「住民視点」と「住民協働」の観点により、魅力あふれるまちづくりの実現をめざす内容となっています。市制施行をステップとした「住民との協働による質の高い効果的な行政サービスの実現」を改革の理念としました。

現地からの感謝のメール

大崎市田尻総合支所 富田 栄支所長より

毎日早朝から夜遅くまで多くの市民のために給水活動などで特段のご協力を賜り、感謝とお礼を申し上げます。また、救援物資を頂戴いたしまして、重ねて御礼申し上げます。さらに給水所に足を運ぶ一人ひとりに温かい激励のお言葉までかけていただき、本当に頭の下がる思いでした。(中略)

ご一緒にご活躍をいただきました仲間の皆様にもよろしくお伝えいただければ幸いです。本当にありがとうございました。

海外から見舞いのメールと手紙が届きました!!

姉妹都市ギズボーン市メン フーン市長より (ニュージーランド)

日本の地震が原因でおきた恐ろしい状況を見ました。私たちは愛する人を失った家族に深く同情し、地震の犠牲者と町が安全でよくなるように心から祈っています。(中略) すべての皆さんに神の祝福がありますように。

ギズボーン・リトンハイスクール ジム コーダー校長より

日本で大地震がありました。皆さんが無事でお元気のことと思います。毎日皆さんのことを心配しています。また、皆さんやご家族、ご友人が無事であらうことを願っています。(中略) 私たちにできることがあれば喜んで力になります。



深圳小学 王海林校長 (中国) から野々市小学校へ

こんにちは。日本で地震が発生し、大きな損害が生じているという状況を見ました。私も同僚も本当に驚き、沈痛な気持ちでいっぱいです。(中略) 野々市小学校の教師、生徒の皆さんのご無事と健康をお祈りしております。



←児童たちからもメッセージカードが届きました



①石巻市、心のケアチームのミーティングの様子。チームごとに訪問する地域を協議しました。②大崎市、ライフラインがまだ完全ではないため、多くの住民が列を作って給水を待ちわびました。③南三陸町、給水車から給水タンクに水を貯める作業の様子。

町社会福祉協議会も職員を被災地へ派遣
地震発生直後、岩手県野田村や近隣市町村だけではボランティアセンターの運営がうまく機能しないことから、全国の社会福祉協議会に声がかかり、県内社協からは3人が現地に派遣されました。
派遣された秋山隆司さんに聞く
活動内容は?
ボランティアスタッフの受け入れやその人員を被災地へ割り振ること。また避難所にチラシを配って、多くの方にボランティアセンターの利用を訴えました。
活動を通して感じたことは?
実際に被災された方とお話することで、本当に困ったり落ち込んでいる気持ちや物すごく伝わってきました。日本人の多くが何か少しでも手助けできないかと思っている中で、自ら現地で活動に参加できたことは貴重な体験でした。今後何かの時には役立てていきたいと思っています。



東日本大震災 3月11日(金)、M9.0最大震度7を記録する東北地方太平洋沖地震が発生しました。
今... 私たちにとできること

町職員を被災地へ派遣
町では、地震発生の翌日12日(土)に第1回緊急支援連絡会議を開き、現地から要請のあった給水車と職員の派遣を決定し、これまでに延べ13人を派遣しました。また、手話通訳士1人を心のケアチーム、保健師延べ4人を健康管理チームの一員として順次派遣しました。(4月20日現在)

給水支援活動
宮城県大崎市では、水道が止まった地区を巡回し、給水車にて被災者への給水支援活動を行い、南三陸町では避難所の給水タンクへの給水活動も行いました。

上下水道課	南 慎太郎
3月12日～18日	大崎市(職員4人)
3月17日～23日	大崎市(職員3人)
3月22日～27日	大崎市(職員2人)
4月7日～15日	南三陸町(職員2人)
4月14日～22日	南三陸町(職員2人)

生涯学習課 村田 知有
南三陸町は甚大な津波被害を受け、全てのライフラインがストップした中、被災された方は不自由な生活を強いられました。
町内の浄水場も津波に飲み込まれて機能しておらず、隣接する登米市から、片道45分かけて水を運搬し、町内に点在する津波を免れた高台の地区で給水活動を行ってきました。
水を届けると「ありがとう」と歓迎されました。中には「水がこんなに大事だとは思わなかった」と、しみじみと話す人もいました。この活動をとおして、被災された方の負担が少しでも軽減できたのではないかと感じました。

心のケアチーム、健康管理チームの活動
宮城県石巻市で被災者宅や避難所を訪れ、被災者の心と体のケアを行いました。

保健師	村田真依子
3月16日～22日	(手話通訳士1人)
3月31日～4月6日	(保健師2人)
4月10日～16日	(保健師2人)

保健師 北 美由紀
家屋で被災生活を過ごしている方の健康状態を確認するため、石巻市の万石浦地区を全戸訪問しました。小さい子ども、障害者、要介護者がいるかどうか、薬が必要な人がいる場合は内服状況を確認し、医療機関や支援機関につながるように働きかけました。
また、心が不安定な人、健康面で支援が必要な人の相談にのり、石巻市の保健師に報告しました。(心のケアが必要な人には後で、精神科医がいるチームが訪問するそうです。)
被災者は主に配給のおにぎりやパンを食べて生活しており、栄養バランスに問題が生じていました。また近所同士で助け合う姿も見られましたが、地域の関係が希薄な所では情報が入手に差があるなどコミュニケーションの問題も見えました。

災害への意識を高めよう！

■**家具の転倒防止や落下物によるけが防止対策**
ガラスの飛散防止対策をする。高い所に物をおかないようにする。

■**棚からの滑り出し防止対策**
戸棚の扉などは、中のものが飛び出さないように止め具で固定しておく。

■**火災への対策**
バケツや、消火器の用意をしておく。
風呂の残り湯を捨てない。

■**断水への対策**

風呂の残り湯を捨てない。被災時用の飲料水の備蓄。給水を受けるための容器の準備。

■**災害時の避難は冷静に**

災害発生時には、身の回りの安全を確かめ、町や消防機関などの指示や状況に応じて避難しましょう。揺れがおさまったら火元を確認し、ガス栓や水道の蛇口をしめて、いつでも避難できる準備をしておきましょう。

備えあれば憂いなし！

地震が起きてからでは遅い 今から準備しよう！

大規模な災害が発生した場合、支援の手がすぐにくるとは限りません。すばやく避難できるように、日ごろから非常持出品の準備をしておきましょう。

一次持出品	二次持出品
避難するとき最初に持ち出す必要最小限の必需品。リュックサックに用意しておく。重さの目安は、男性で15キロ、女性で10キロ程度。	救援物資が届くまでの数日間（3日間）を過ごすためのもの。



自主防災組織のススメ ～やれることからやる～



北村 淳平さん
太平寺町内会長

町では各町内会に自主防災組織をつくることを勧めています。各町内会の自主防災組織率は60%にとどまっています。「想定外のことがあっても慌てないように、日頃から知識を高め、どう対応するか地域の人々が考えていかなければならない」と話すのは、太平寺町内会長の北村さん。

太平寺町内会では、平成19年1月に自主的に災害に対する協議を行い、規約・防災計画等を作成しました。その年の3月に能登半島地震が発生。「知人に連絡しようにも電話は通じない、行こうにも道は寸断されている。公的機関が一生懸命復旧活動をしているんだらうけど追いついていない。」その時に改めて、地域のコミュニティの大切さを実感したと言います。

町内組織の活動は、自警団を中心とした防災訓練を行っています。昨年は、さらに、小学生対象の避難訓練や災害時に1人で何でもできるよう炊事訓練を実施しました。「今後は災害現場など実際に現場に行き、ボランティア活動をして実践力を高めていきたい。」と意気込みを語ってくれました。

■貴重品 現金（公衆電話用の10円硬貨があると便利）、預貯金通帳、権利証書、免許証、健康保険証 ■携帯ラジオ・懐中電灯 小型で軽いもの。予備電池も多めに用意する ■非常食品・水 乾パンや缶詰など調理不要で食べられるものを用意する ■救急薬品 ばんそうこう、包帯、ガーゼ、消毒薬、傷薬、脱脂綿家庭用常備薬、衛生用品 ■その他 タオル、ティッシュペーパー、下着、カイロ、マスクなど	■食料 そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの ■水 大人1人当たり1日3リットルが目安 ■燃料 卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベ、マッチ、ライター ■その他 携帯トイレ、洗面具、生理用品、ビニール袋など
--	--



被災地復興の一助に！ 支援の輪が広がる

町民の思いを託す

町連合町内会義援金

4月8日（金）、連合町内会藤会長ら役員5人が町役場を訪れ、東日本大震災の被災地を支援しようと54の町会から募った義援金を町長に手渡ししました。集まった義援金3,351,169円は日本赤十字社を通じて被災地に送られ被災地復興に役立てられます。



私たちにできることを形に 町内小中学生義援金

4月19日（火）、町内の5つの小学校と2つの中学校の児童生徒4千3百人と教職員の義援金の寄託式が町役場で行われました。式には各学校の代表ら21人が出席し、町社会福祉協議会の宮崎理事長に1人ずつ義援金を手渡しました。集まった義援金は481,488円。県共同募金会を通じて被災地に送られ被災地復興に役立てられます。

議会活動

3月16日～4月15日

大会結果

■第29回町民トランポリン大会

3月13日 町民体育館

▽Cクラス 小学校低学年

①沖野莉沙 ②北村梨彩

③伊勢雄大

▽Cクラス 小学校低学年

①大本瑞喜 ②北本泰丈

③道端 悠

▽Cクラス 小学校高学年

①山岡優里 ②北本 妃

③押田優希

▽Bクラス

①餅木寛人 ②高橋由衣

③北野紘香

▽Aクラス

①柳原銀介 ②餅木健人

③桶作花凜

▽ハイクラス

①勘島 碧 ②長尾光喜

③長尾俊佑

▽幼児

①道井侑里 ②浜口日菜

③北嶋莊汰

▽一般

①横浜猛夫 ②塩井那奈

③松岡里紗、奥村麻央

▽最高演技点賞

柳原銀介

▽最高難度点賞

勘島 碧

入札結果

1,000万円以上（税込み）

3月入札分

■平成23年度野々市町文化会館舞台設備管理操作業務

予定価格 1,045万8千円

落札価格 1,037万2千3百20円

落札者（株）金沢舞台

議会だより

議案23件、諮問1件が原案どおり承認、可決、同意、認定されました。請願1件については不採択となりました。

可決された議案

専決処分(平成22年度町一般会計補正予算)の承認

947万円を追加し、予算総額を174億5,211万4千円とする。

■主な内訳 住民生活に光をそそぐ交付金を活用しての自殺防止緊急対策事業、町立図書館、小中学校図書館の図書購入などによる増額。

平成22年度町一般会計補正予算

7,664万3千円を減額し、予算総額を173億7,547万1千円とする。

■主な内訳 除雪委託費の増額および事務事業の実績、決算見込みなどによる調整。

平成22年度町土地取得特別会計補正予算 38万6千円を減額し、予算総額を3億6,261万4千円とする。



■主な内訳 公営住宅建設用地取得の契約額の確定による調整。

平成22年度町国民健康保険特別会計補正予算

3,039万6千円を追加し、予算総額を41億9,302万2千円とする。

■主な内訳 実績見込みに伴う保険給付費などによる増額。

平成22年度町老人保健特別会計補正予算 5万円を追加し、予算総額を876万7千円とする。

■主な内訳 老人保健特別会計の廃止に伴う一般会計繰出金の調整。

平成22年度町介護保険特別会計補正予算 6,203万6千円を追加し、予算総額を18億4,137万5千円とする。

■主な内訳 実績見込みに伴う保険給付費などによる増額。

平成22年度町下水道事業特別会計補正予算 1,183万1千円を追加し、予算総額を17億5,163万1千円とする。

■主な内訳 公共下水道事業費、長期借入金利子額の確定に伴う調整。

平成23年度町一般会計予算

予算総額 148億4千万円

平成23年度町土地取得特別会計予算

予算総額 3億6,800万円

平成23年度町国民健康保険特別会計予算

予算総額 41億9,500万円

平成23年度後期高齢者医療特別会計予算

予算総額 3億4,300万円

平成23年度町介護保険特別会計予算

予算総額 19億5,200万円

平成23年度町下水道事業特別会計予算

予算総額 19億4千万円

平成23年度町水道事業会計予算

収益的収支 7億1千万円

資本的収入 1億1,100万円

資本的支出 5億2,700万円

町条例の左横書きに関する特別措置条例 庁内で取り扱う文書を左横書きに統一する。

町職員定数条例の一部を改正する条例 市制施行、人口増加による業務増加に伴い職員定数を改正する。

職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例 「地方公務員の育児休業等に関する法律」および「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」の一部改正に伴い改正する。

町文化会館条例の一部を改正する条例 文化会館の改修に伴い施設使用料などを改定する。

町温泉スタンド条例

田尻町地内に開設する温泉販売所の使用条件などについて定める。

町上下水道事業経営審議会条例

上下水道事業の運営などについて審議することを目的に、地方自治法に基づき制定する。

町道路線の廃止

町道路線の認定

北西部土地画整理事業、押野4丁目地内における開発行為に伴い、町道を1路線廃止し、7路線認定する。

野々市は歴史を証す財産、眼差しを共有

村本 道治 議員

Q 三月議会は、栗町長の一期目の総仕上げである。町長から「中世以来の名称である野々市は歴史を証明する財産であり、この地に住むものの責務である。」と決意をいただいた。(いち)に想いをこめる栗町長の眼差しを共有したい。資産としての歴史・文化・産業の新たな振興政策は。

A さまざまなイベント、インターネットを通して、文化財などの活用と情報発信を行いたい。

Q インフラの整備は、永遠の事業。風土を生かした整備を。四十万中林線の未開通部分は、防災上の観点からも極めて緊急の課題である。この道に消雪設備を早急に。

A 土地画整理事業、上下水道の拡行充実など町民の生活基盤確立のためのさまざま事業に取り組んできた。四十万中林線などの都市計画道路についても検討したい。

本町地区の再開発について

田中 昭一 議員

Q 本町2丁目地内都市計画道路八日市額新保線旧県道窪野々市線および住吉川に囲まれた地区には、旧町役

場(現町立図書館)、中央公民館、2丁目一番街および布市神社などの施設がある。当該地区は住居が建てこんでおり地

一般質問

町政全般にわたり、平野、村本、田中、尾西、野村、岩見、大東議員の7人が一般質問を行いました。

質問者と質問、答弁の要旨は次のとおりです。(発言順)

市制に向けたまちづくり

平野 政昭 議員

Q スポーツランドの利用者数が激減している。白山市のプールと同じ年間バスポート制を採用すればどうか。白山広域事務組合のように広域行政の中でも相互の共通利用が可能になれば利用状況の改善が期待できるのではないか。町長の考えは。

A スポーツランドプールのバスポート制については導入を検討したい。広域バスポート制については、相互利用について協議することが多いので、今後研究したい。

Q 当町中学校の水球練習を土日にできるよう配慮し、再び「水球野々市」の復活に力を入れていただきたい。

A スポーツランドプールの利用形態、学校の意向などを調査し、使用について検討したい。

Q まちづくり条例のその後の進捗状況について伺う。

A 平成26年度中の制定を目指し、平成23年度後半から策定作業を進めたい。

Q 本町2丁目地内都市計画道路八日市額新保線旧県道窪野々市線および住吉川に囲まれた地区には、旧町役

場(現町立図書館)、中央公民館、2丁目一番街および布市神社などの施設がある。当該地区は住居が建てこんでおり地

震などの災害時には大きな被害が生じる恐れがある。地域住民のなかには何となく災害に強い町にしたいと希望する方も少なくない。再開発を行う考えはないか。まちづくりにかかせない防災対策について、今後の町の防災対策はどのようなことに重点をおいて取り組んでいくのか。特に当該地区を含めた本町地区についての取り組みを伺いたい。

Q 消防防災施設、資機材の整備充実を図るとともに、地域防災力の向上のため、各種団体、住民と防災に関する情報を共有したい。また今後、金沢工業大学と連携し、防災に関し総合的に研究を行いたい。



ぬくもりある街づくりについて

尾西 雅代 議員

Q 平成20年3月定例会で自転車の安全対策について「新設道路には歩道幅を広げるなど、安心安全な道路づくりをしていく」との答弁をもらった。平成21年10月には県でも専用道整備に着手し、町も自転車リサイクル事業が始まった。この3年間の進捗状況はどれだけか。安心して安全に街中を走らせられる環境整備を進めていただきたいと思う。

Q 自転車リサイクル事業について、は、2月末現在で36台の放置自転車を提携店に渡し、その内31台が販売された。環境整備については都市計画道路で、歩行者と自転車が多いと見込まれる

究を行いたい。

Q 市制に向けた新たな広報について、月に2回広報配布があったときは、本編とあわせてお知らせ版によるていねいな情報発信があったが、今は月1回の広報配布である。お知らせ版を本編の中に入れることはできないだろうか。市制に向けて新たな広報紙面を検討してはどうか。

Q 本編とお知らせ版の一体化を行う場合は、お知らせ版に掲載する情報の制限や、本編の定番記事の見直しなど、広報紙に掲載する情報量を減らす必要がある。今後も広報紙が住民から愛されるよう見直しを行いたい。

場合は、歩行者と自転車が共に利用できるよう、幅員の広い歩道を設置することになっている。

Q 今冬の降雪は久しぶりの大雪で、油断があったのではないか。苦情が殺到したのではないか。初動判断をひとつ間違っていたらの教訓である。そこで町内には旧来の井戸が残在していると聞く。今一度調査し、街中の消雪に活用する策を練ることを提案する。安心して安全に暮らせるための施策をお願いしたい。前向きな検討をお願いしたい。

Q 地域により消雪装置として井戸を利用しているが、浅井戸の場合は水

量が不足し、道路消雪に向かないことがある。消雪装置の設置を検討している町



人は町の財産

野村 満 議員

Q 5万人の野々市には、数多くの人会議にご登壇いただけないか。また「市役所」と名称が変わっても、住民にとって遠い存在にならないでほしい。

Q これまでも学識経験者、町内会、文化、スポーツなど専門的な団体などから知識と経験を持った方に各種審議会などの委員に就任してもらっている。また、職員には地域行事や各種催事に積極的に参加することを促している。

東浦町との交流について

Q 住民レベルでの市全体の交流を期待する。

Q 東浦町とは災害時における相互応援協定を締結し、協力体制を構築している。今後は自主防災組織の代表者が東浦町を訪問し、意見交換するなど、積極的に交流していきたい。

校下制について

Q 町から市へと区切りの今、校下制について再度の協議を求める。

Q 次期総合計画の町民意識調査では、校区制と地区制の意見が均衡してお

中央病院の検診部門を野々市地内に

大東 和美 議員



Q マンモグラフィーの検診などを受けやすくするために公立松任石川中央病院の検診部門を野々市地内にも設置を推進することを提案する。

Q 公立石川松任中央病院からは、設置は考えていないとの返答があったが、病院のほか医師会などとも連携をとりながら、受診体制の整備を図りたい。

徴税吏員によるファイナンシャルプランナー技術の活用について

Q 徴収が上がり、町民も生活しやすいくなる税金徴収対策を提案する。

Q 税務課にファイナンシャルプランナー資格取得者がおり、納税相談にあたっている。

役場の夜間開設について

Q 開設時間延長を。週に一回でも午後7時まで開設し、住民サービス向上に努めてはどうか。

Q 現在、住民課窓口で午後5時45分まで業務を行っているが、延長時間内の利用数が少ないので、これ以上の時間延長については考えていない。

ファミリーサポートセンターの拡充について

Q 対象年齢の幅や、夜間の開設、障がい児の対応を拡充推進してほしい。

内会などは、消雪装置設置費および電気料金に係る補助制度を利用して欲しい。

り、どちらが良いとは言えない状況である。

用水と雪

Q 側溝や用水路に構造物を設置し、雪を投入できるようにならないか。

Q 住宅密集地の水路、側溝の多くは雨水を流すためのものであり、降雪時に多くの雪を投げ込むと、水がふれる恐れがあるので、雪の投げ込みをしないよう広報などで知らせている。豪雪地帯には流雪溝というものがあるが、整備、管理の面で多くの課題がある。今後研究したい。

JR在来線と石川線

Q 北陸新幹線の開業に伴い、並行在来の運用について議論が始まっている。これを機会に、私鉄の石川線の活用にもっと力をいれたらどうか。西金沢駅での北陸線との接続や廃止となった加賀一宮までの復活により、新幹線効果が一層期待できるのではないか。

Q 新年度、沿線町内会を中心に石川線利用促進に向けた会議を立ち上げ、関係市町や関係団体と連携し、利用促進活動を展開したい。

Q センター機能の拡充のためには協力会員の拡大が必要である。制度の啓発、周知に努め、会員を募集していきたい。

うつ・自殺防止対策について

Q 心の健康を守る、うつ・自殺防止対策について今後どのように取り組むか伺う。うつ病や不安障害の実態および早期発見・早期治療の状況はどうか。うつ病に効果的な治療法として、昨年4月から保険適用になった「認知行動療法」の取り組みは。「傾聴ボランティア」の育成状況はどうか。

Q 石川中央保健福祉センターで実施されている「こころの健康相談」についての情報を町広報に掲載し、相談を通してうつ病の早期発見や受診をすすめている。認知行動療法については、薬物療法と同様に精神科治療に広く活用されるものと言われており、国においてもマニュアルを作成し、医療従事者への研修を行うなど普及活動に力を入れている。傾聴ボランティアについては、平成23年度県において養成講座が開催されるので、町としても参加を呼び掛けたい。

※ファイナンシャルプランナー
個人のライフステージや生活設計に合わせて財産形成計画を提案する職業。

住宅リフォーム助成制度の創設を



岩見 博 議員

Q 町の中小企業に仕事を作り、地域経済を元気にする起爆剤として住宅リフォーム助成制度の創設を提案する。

Q 対象者の要件はそれぞれあるが、住宅リフォームに関連する制度がいくつかある。この制度の活用が、個人負担の軽減や町内事業者の活性化につながればと考える。

病院窓口負担の無料化を

Q 県医師会が県議会に「子どもの医療費の完全無料化等を求める請願書」を提出した。町として病院窓口負担無料化を実施する考えは。

Q 実施には多額の経費が必要であり、県の子ども医療費助成制度の拡充、国においては、子ども医療費助成制度の新設などが必要であるので、今後とも国や県に要望したい。

国保税負担の軽減を

Q 国庫負担の削減が保険税高騰の原因。国庫負担割合を元に戻すように国に求める考えは。町民負担を軽減するためにも一般会計からの繰り入れを。

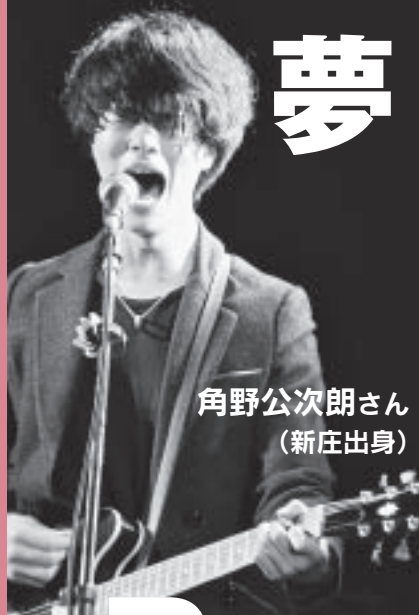
Q 一般会計からの繰り入れは、受益と負担の公平性からみて、適当ではない。

夢×挑戦

Dream and Challenge



林亜久里さん（藤平出身）



角野公次朗さん
（新庄出身）



尾田遼平さん
（太平寺出身）

Off the Record

オフ・ザ・レコード

町から羽ばたくロックバンドの叙事詩

町出身3人のバンド

3月15日(火)、金沢市のライブハウスに、約150人の若者が詰め掛けた。観客が見つめるなか、3人の想いを込めた演奏が始まります。「Off the Record」の県内最後のライブです。

「Off the Record」は、町出身の男性3人によるロックバンド。メンバーは、小学生からギターを弾いているボーカル・ギターの角野さん、保育園のとき和太鼓を習っていて打楽器に親しみがあつたドラムの尾田さん、そして自宅に防音設備を作るほど練習熱心なベースの林さん。3人は、野々市中学校在学中にバンドを結成。別々の高校に進学しながらもバンド活動が続け、高校生バンドの全国大会で決勝まで進んだ。一般を含めた県内のアマチュアバンドの大会で優勝するなど華々しい成果を残してきました。

演奏中、いつも2人の背中を見ている尾田さんは「メンバーは友達でも家族でもない不思議な関係。同士という言葉が近い

ですかね」と話します。そんな同士と作り上げるライブでは、「みんなに想いを届けることを大切にしています」と林さん。上手く演奏できたと思っても、客の気持ち全然ついてこないときもあれば、「今回のライブの最後の曲では、声がかすれて出なかったけど、ありがとうという気持ちをたくさん込めたので、お客さんもすごく盛り上がってくれました」と15日のライブを振り返る角野さん。

高校卒業を機に上京

この春、高校卒業を迎えたメンバー。3人が進路に選んだのは「上京」という道。それぞれが音楽の専門学校に進み、技量の向上を目指します。「高校3年間、勉強よりも遊びよりもバンドの練習を第一にやってきました。この1年間ずっと悩んで出した結論です」と林さん。「これから3人でバンドをやっていくことが理想。そのために、まず一人ひとりが一人前の音楽家にならなきゃと思ったんです」と語るのは角野さん。尾田さんは、「応援してくれる人のためにも、何か残したい。それ



はやはり音楽しかない」と新生活の決意を新たにします。将来は、野々市にも名前が響くようなバンドに成長し、町で凱旋ライブをしたいと夢を語る3人。野々市は住みやすいから、落ち着いたらまた戻ってきたいとも話してくれました。

地元自分たちの音楽を残そうと開いた県内最後のライブの名前は「※Odyssey」。

ここから、彼らの長編叙事詩が始まるのです。

※古代ギリシャの長編冒険物語の題名

地域福祉計画・地域福祉活動計画アンケート調査にご協力をお願いします。

アンケート調査の内容

町および町社会福祉協議会では、平成24年度内公表を目標に「野々市町地域福祉計画」「野々市町地域福祉活動計画」の策定に取り組んでいます。

今回、取り組みの一環としてアンケート調査を実施することとなりました。

調査票がお手元に届いた際には、ご協力をお願いします。

- 1. 対象者** 18歳以上の町民から無作為に抽出した2千人
- 2. 実施方法** 郵送による配布・回収
- 3. 実施時期** 5月ごろ

地域福祉計画とは

地域における福祉の問題に対し、その地域の住民、福祉関係者、行政などが協力して取り組むための理念、方向性を定めた計画です。

地域福祉活動計画とは

地域福祉計画と連携・協働し、地域の住民、福祉関係者、行政などが地域福祉の推進に主体的に関わるための具体的な活動を定めた計画です。

問い合わせ

しあわせ支援課

町社会福祉協議会

2246-0112

新しい相談窓口の開設です！

町では認知症になっても安心して暮らせるように、いろいろな取り組みを行っています。その一環として今年度から「認知症相談窓口」を設置することになりました。町内には6カ所のグループホームがあり、これは町民のみが入居できる地域に密着したサービスです。その中に相談窓口を設置することで、今後、町民が安心して暮らせる町を目指します。

①どんなことを相談できるの？

①認知症の人に対する接し方を聞くことができます。

②相談はいつでもいいの？

②それぞれのグループホームで下記のとおり相談日が決まっています。

一人で悩まず、まずは相談しましょう。自分のことでも家族のことでも、認知症に関することなら何でも相談してみてください。

※時間は10時～15時です。

グループホーム名	住 所	連絡先	相談日
あんのん (池田病院横)	新庄2丁目14番地	246-7700	毎月第2木曜日
めいりんの里	下林3丁目280番地	248-8200	毎月第3月曜日
レインボー1	高橋町2番12号	246-5740	毎月第4火曜日
つばき・れんげ (南ケアセンター内)	蓮花寺町1番1号	294-3737	毎月第2日曜日
イエローガーデン 金沢白山	柳町36番2号	275-9771	毎月第1水曜日
新生 (押野医院横)	押野6丁目145番地	246-5505	毎月第4金曜日

問い合わせ

町地域包括支援センター（介護長寿課内）

2227-6067

小さな胸に希望いっぱい

町内小中学校入学式

晴れわたる青空のもと、4月7日(木)に町内小中学校で入学式が行われ、小学生516人、中学生452人が新たに学校生活をスタートさせました。

富陽小学校では藤森校長から“あとしまつ”“ありがとう”“あんぜん”の3つの“あ”を大切にしてもらいたいと式辞がありました。また、在校生からは、「学校生活は楽しいです。何か困ったことがあったら聞いてください」と歓迎のあいさつがありました。

入学式後の各教室では、担任の先生と顔合わせが行われ、子どもたちの元気ある笑顔と声であふれていました。



ルールを守って安全運転

町安全協会が自転車りんりんマナーUPキャンペーン

4月15日(金)、新入学児童に対する交通安全指導・保護誘導活動の実施にあわせて、自転車の安全利用を呼びかけるキャンペーンが行われました。平成14年から始まり今年で10回目。町交通安全協会と松任警察署員、金沢工業大学生など約80人が参加し、金沢工業大学、野々市明倫高校、野々市中学校、布水中学校の4力所で啓発活動を行いました。明倫高校前では「イヤホンしながら乗っちゃだめだよ」「気をつけて乗ってね」とマナーの向上を訴えました。今年は防犯協会とも協力して自転車盗難防止のチラシなどを配布しました。



これで安心！病気にならないワン

定期狂犬病予防注射

4月17日(日)、18日(月)の2日間、今年も町内5力所で495頭の犬が狂犬病予防注射を受けました。17日は天気が良く、散歩がてら役場駐車場内の会場を訪れる飼い主が多く見られました。

犬を飼うときは、自治体への登録と毎年1回の狂犬病予防注射が義務付けられています。「注射を受けさせる場合は普段と違った様子はないか愛犬の体調チェックと、現場で興奮させない配慮が必要です。犬にもそれぞれ性格があるので、集団注射に向かない犬の場合は、個別に動物病院で接種してほしい」と獣医師からのアドバイスでした。



一人で悩まず相談を

自殺対策啓発活動

毎年、自殺者は全国で3万人を超えています。3月の自殺対策強化月間に合わせて3月30日(木)、31日(金)にイオン御経塚店で自殺防止を呼び掛ける街頭キャンペーンが行われました。来店客にこころの健康や病気についての相談窓口を記載したクリアファイルやパンフレットを3000部配布。自殺者は不眠に陥ることが多いことから、町内の知的障害者通所授産施設「けやき野苑」で製造されたハーブピローも併せて手渡し、啓発を行いました。

←3月30日(木)、足をとめて熱心に話を聞いていました。



災害に備えて万全の準備を

春季火災防ぎょ訓練

3月19日(土)、火災防ぎょ訓練が蓮花寺町の金沢南ケアセンターで行われ、町消防団や消防署、施設職員など約150人が参加しました。

訓練は、建物の4階から出火、ベランダに要救助者がいるとの想定で、職員による通報や患者の避難誘導、消防機関による一斉放水や救助活動が行われました。訓練後、町長は、「今後、万が一の時に的確な行動がとれるように考えてもらいたい。」と講評しました。



忘れないで、住民登録

大学出張窓口

3月下旬から4月上旬にかけて、町内大学に入学する学生の住民登録促進をするため、住民票の転入手続を行う出張窓口を開設しました。適正な住民サービスにつなげることと、学生の町政への参加意識や町民としての自覚をもってもらうことを目的に、今年で3回目となりました。

この出張窓口は、金沢工業大学で3日間、石川県立大学では1日開き、延べ4日間で手続きをした学生は317人。新たに野々市町民の仲間入りをしました。

←3月30日(木) 金沢工業大学で手続きする新入生たち



カメラあちこち

パンダの「止まれシール」貼り

子どもの交通事故防止

4月12日(火)、ほりうち保育園で子どもの飛び出しを防ぐ「止まれシール」貼りが行われました。参加した年長園児は、松任警察署の交通指導員から道路を渡るときの注意を聞いた後、町交通安全協会岡山会長からパンダが描かれたシールを手渡されました。園児たちは、「みぎみて」「ひだりみて」と書かれたパンダのシールに興味深そうに指差ししながら、自分の命を守ることの大切さを学んでいました。

この止まれシールは、町内全ての保育園・幼稚園に各10枚配布され、園内や周辺の道路に貼られました。



オススメの本

子ども向け



『みんなを好きに 金子みすゞ物語』

矢崎 節夫／著 JULA出版局
身の回りの小さなものにも深い愛情をそそぐみすゞの詩は、いまやテレビCMでもすっかりおなじみとなった。これらの詩は、どのようにして生まれ、知られるようになったのだろうか？

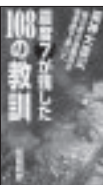
町立図書館

本町2-14-6 (☎248-8099)

開館時間 10:00～19:00 (土日は17:00まで)

休館日 毎週月・祝日

大人向け



『震度7が残した108の教訓』

荒尾 和彦／著 小学館
いつわが身に起こっても不思議ではない大災害で生き残るには？「寝るときはスリッパを手の届く場所に」「隣人に声をかける」「汚れた皿でもラップを巻けばきれいに使える」等、著者が阪神大震災に被災して得た知識の数々。

今月のおはなし会

とき：5月14、28日(土)

午前11時から

場所：図書館1階

児童図書コーナー

今月の展示図書

『一冊の本との出会い』
県子ども読書月間にちなんで

このテーマに限り、展示図書はすべて貸出できます。多数ご利用ください。

図書館お役立ち情報：防災関連情報は図書館で。図書・新聞・雑誌・Webから、日常の備えとして必要な情報や基礎的な知識が得られます。

Topics 文化会館フォルテ 改修記念事業

文化会館フォルテは、昨年8月から3月まで改修工事を行っていました。4月3日(日)には改装された館内を案内するバックステージツアーが行われ、15人が参加。普段めったに見ることのできない大ホールの裏側などを見学しました。

また4月9日(土)には、リニューアルオープンを記念するコンサートが開催され、町が所蔵するグランドピアノの名器「ベーゼンドルファー・インペリアル」のオーバーホール後、初の演奏会となりました。この日は、NHKスペシャルの作曲も手がけたウォン・ウインツァンさんのピアノソロコンサート。

ウォンさんは「このピアノに会いに野々市に来ました」というだけに、リハーサルでもピアノを念入りに弾いていました。また、文化会館開館(1988年)の頃の「ベーゼンドルファー・インペリアル」が最も響きが美しく、二度とこのようなピアノは作れないと語っていました。

花冷えの夜に集った約350人の聴衆は、静かな中にも力強さを感じる演奏を堪能していました。岩手県出身の女性は、親戚が避難所生活をしていることから、早く心穏やかな日が来ることを願いながら聴いたとのこと。ウォンさんも演奏活動を通じて、物心ともに被災地を支援しています。



↑癒しの音色が会場内に流れました



↑バックステージツアーにて舞台の照明効果に興味深々の参加者たち



↑開演前、楽しみに来場した観客の列

4月1日に二日市町つばきの郷に社会福祉法人愛里巣福祉会アリス保育園が誕生しました。今回、紅谷園長にお話を聞きました。



＜一番大切にしていることは＞

子どもたちの笑顔が一番を考え、それを大切にしています。保護者の皆さんにとっての良きパートナーとして一緒に子育てを楽しみながら日々の保育に取り組んでいきたいですね。

4月は全園児が新入園児でありましたので、初めのうちは、みんな緊張していましたが、数日経った今では子どもたちの笑顔も増えてホント落ち着いています。これからは安心して預けていただけるような環境をしっかりと整えていきたいですね。

また地域に開かれた保育園でありたいと思っています。園内に子育て支援センターを開設しているんですが、そこでは一時預かり保育、育児・発達相談、ふれあい遊びなどを平日に実施しています。病後児保育、マイ保育園登録、赤ちゃんの駅も行っていますよ。

ほかにも、身体に障害を持っている方や高齢の方も利用できるようにバリアフリー化した園舎になっていますし、遊戯室と給食室とを隣合わせにして、地域のお祭り時にはここを開放して飲食しながらゆっくりくつろいでもらえるような工夫もしています。多くの皆さんに来ていただきたいですね。

かがやくひとみ

「輝いている子どもの笑顔をみる
ことが私たちの一番の願いです」

アリス保育園



↑子育て支援センターで楽しそうに遊んでいる親子連れ。カメラに向かってピース



アリスグループのキャラクターうさぎ、アリスちゃんです。どうぞ可愛がってくださいね。

野々市検定

～新しい発見があるかも!??～②

正解は
18ページで

町の魅力を伝える野々市検定第2弾!今回は町の歴史や年齢にまつわる問題を作成しました。楽しみながら挑戦してみてください。

【1問目】野々市に守護所を置いた加賀国(現在の石川県南部)を支配した守護大名は?
A.富樫氏 B.北条氏 C.足利氏 D.新田氏

【2問目】現在の本町地区を中心に「野々市町」が初めて誕生したのはいつ?
A.明治22年 B.大正13年 C.昭和30年 D.昭和32年

【3問目】平成22年12月現在、野々市町に住む人の平均年齢はおおよそいくつ?
A.35歳 B.39歳 C.43歳 D.47歳

わたしの夢



ケーキ屋さんになりたい

久々湊 美紘さん
富陽小学校2年



大工になりたい

池田 純基くん
野々市小学校2年

ぼくの夢

【おわびと訂正】
先月号の11ページ平成22年度町俳句協会新年句会の中で「奥村誠一先生」と表記しましたが、正しくは、「奥村誠一路先生」です。
また18ページで、野々市検定第2問「かすで漬けたすし」と表記しましたが、正しくは「こうじで漬けたすし」です。
おわびして訂正します。

東日本大震災被災地支援
チャリティーカット開催

野々市情報交流館
カメラ2Fホールにて
(野々市町役場) 《受付終了時間》
5/4 AM10:00～PM3:00
(水・祝) **1,000yen** (税込)
お子様限定(0歳～小学6年生)
※必ず保護者の方と一緒にご来場ください。

この度、東日本大震災の被災地支援のための、チャリティーカットを行います。イベントで集まった収益を全額義援金として送ります。
※当日は、事前のご予約を承っておりません。
受付順とさせていただきますのであらかじめご了承下さい。
※会場の都合により、シャンプー・ブローは出来ません。
HAIR MAKE ヘアメイク カミオグループ
KAMIO GROUP

『もしも』の時の安心と信頼
会員募集 会費無料
フューネラル倶楽部
JAのいちコスモスの会

JA指定ホール
フューネラルホール
野々市町矢作2丁目111番地 電話(076)294-4141

天祥閣
フリーダイヤル
0120-800-448
URL <http://www.tensyoukaku.co.jp>

スピード
給付の **県民共済**

こども型 総合保障型
熟年型 新型火災共済

お問い合わせと資料のご請求は
0120-63-5011
☎076(263)5011(代) ☎076(263)5107
[共済取扱団体/石川県認可] 石川県民共済生活協同組合
〒920-0901 金沢市彦三町2-1-10 真和ビル3F
ホームページアドレス <http://www.ishikawa-kyosai.or.jp/>
携帯電話からはこちらへ <http://kyo-sai.jp/>

産官学が生み出した
野々市ブランド酒
ichi 椿

お酒は二十歳になってから
中村酒造株式会社
石川県石川郡野々市町清金2丁目1
TEL076-294-6271/FAX076-248-2436
URL <http://www.nakamura-shuzou.co.jp>

広告欄



郷土資料館で見られる囲炉裏



喜多家の囲炉裏灰形



遺跡から見つかった縁石（徳用クヤダ遺跡）

野々市町郷土資料館（入館料 無料）

野々市町本町3丁目19-24

電話：076-246-2672

開館時間：10時～18時

休館日：月曜日、祝日の翌日（土・日は除く）、
年末年始

喜多家住宅

（入館料 大人400円、小人300円）

野々市町本町3丁目8-11

電話：076-248-1131

開館時間：9時～17時

休館日：無休

囲炉裏（いろいろ）

囲炉裏は、床を四角に切り抜き、その中に灰を敷き詰め、マキや炭などで火をたいた場所で、暖房や調理を目的としました。

今ではその姿をほとんど見ることはありませんが、本町通りに建つ喜多家や郷土資料館では、立派な囲炉裏を見ることができます。このうち、喜多家の囲炉裏は、むかしから伝わる細かい文様を施した灰形が描かれ、大変見ごたえがあります。

また、およそ700年前の室町時代の村の遺跡からは、囲炉裏の部位となる^{ふちいし}縁石が見つっています。石は細長い四角形やし字形をしており、これらを組み合わせて作りました。石の一部には、火をうけたため黒いススの付いた箇所がみられます。

このように、人々のはるかむかしから囲炉裏を使っていました。おそらく、当時の人々たちも、囲炉裏を囲って談笑するような、一家だんごんの風景がみられたことでしょう。